

嚥下スクリーニング検査

スクリーニング検査は、摂食嚥下障害が疑われる患者を早期に発見し、その後の精査と診断、治療へとつなげるために行います。特別な設備のない施設やベッドサイドでも簡単に 行うことのできるスクリーニング検査を3つ紹介いたします。

反復唾液嚥下テスト (RSST)

◆方法

人差し指で舌骨を、中指で甲状軟骨を触知し、30秒間に可能な唾液嚥下の回数を計る

評価基準

3回以上：正常

2回以下：嚥下障害を疑う

◆留意点

喉頭の挙上範囲を確認

* 甲状軟骨（喉仏）が挙上し、下降までの範囲

正常範囲：1横指（約2～2.5 cm）



改訂水飲みテスト (MWS T)

◆方法

①冷水3mlを口腔底に注ぎ嚥下を指示する

②嚥下後、反復嚥下を2回行わせる

③評価基準が4点以上なら最大2施行繰り返す

④最低点を評点とする

評価基準

1：嚥下無し、むせるand/or呼吸切迫

2：嚥下あり、呼吸切迫（不顕性誤嚥の疑い）

3：嚥下あり、呼吸良好、むせるand/or湿性嘔声

4：嚥下あり、呼吸良好、むせない

5：4に加え、反復嚥下が30秒以内に2回可能



食物テスト (Food Test)

◆方法

①ゼリーやヨーグルトを小さめスプーン1杯（約4g）を舌背前部に置き嚥下を指示する

②嚥下後、反復嚥下を2回行わせる

③評価基準が4点以上なら最大2回繰り返す

④最低点を評点とする

評価基準

1：嚥下無し、むせるand/or呼吸切迫

2：嚥下あり、呼吸切迫（不顕性誤嚥の疑い）

3：嚥下あり、呼吸良好、むせるand/or湿性嘔声、口腔内残留中等度

4：嚥下あり、呼吸良好、むせない、口腔内残留ほぼ無し

5：4に加え、反復嚥下が30秒以内に2回可能

